

バン格拉デシュ

プロジェクトヒストリー「漫画版」

IT人材がもたらす 日本の地方創生

協力隊から産官学連携へとつながった新しい国際協力の形



バングラデシュ人民共和国。

インド



ベンガル湾

首都 ダッカ
言語 ベンガル語

ミャンマー

国土は 14 万 7 千km²、
日本の約 4 割分の大きさに、
約 1 億 6,468 万人(2020年)
の人が暮らす。

日本の人口は1億2,478万人(2022年現在)と考えると、
街に人が多いな〜と印象を受けるのはもちろん、



更にバングラデシュの人達は
とにかく人との距離が近い(笑)

そのせいか、人口密度が高いだけではなく、
心理的に近いと感じる。



目が合ったら声をかけ、

知りあいになるとすぐに、どうぞ家に泊まって〜
ぜひご飯食べていって!、と言ってくれる(笑)



そして、超親日国。理由はいろいろあるが、
例えば日本の自動車や電機メーカー、アニメなどの影響。



年配の方から良く聞くのは…



ベンガル語を守るために戦った独立戦争で、
日本は先進国の中で最初にバングラデシュ
の独立を認めると宣言したんだよ。

バングラデシュは「スマート・バングラデシュ」を政策スローガンの一つとして掲げ、
IT産業開発・IT人材育成に力を入れている。

国民の
平均年齢 **27.6 歳** //
高い経済
成長率!!



しかし、バングラデシュでは、
IT人材はたくさんいるのに
就業機会が不足していた。



一方、日本の IT 人材不足は深刻。

そんな日本とバングラデシュ、それぞれが抱えるニーズを埋め合わせるべく
発案され実行されていったプロジェクトがある。

この物語は、バングラデシュを舞台に、“JICA 青年海外協力隊が火をつけた” IT人材育成で育った
ITエンジニア達が、日本の地方創生に貢献してくれるようになるまでの14年間を綴った、
現在進行形のストーリーである。

僕の名前は狩野剛。



金沢工業大学 情報フロンティア学部准教授、
一般社団法人 ICT for Development 代表理事。

この壮大なプロジェクトは、
バングラデシュと僕の国日本の、
本当に多くの尊敬すべき人達が、

アイデアを出し合い、努力し、
バトンを渡すことで成功していった。



僕はその一端を担ったに過ぎない。

バングラデシュにも日本にもいるキーパーソン達。
そんな多くの情熱ある人達がつないでいったこの物語を、
プロジェクトを代表して伝えられたらと思う。

2008年3月。
キーパーソンの1人目、庄子明大さん

青年海外協力隊のコンピュータ技術隊員として、南部の地方都市ポリシャルに赴任。



協力隊の前はIT企業の経営に関わっていたが、開発途上国でのIT人材育成へ貢献したいとバングラデシュにやってきた。

要請内容は、バングラデシュ・コンピュータ評議会(BCC)で大学生を中心とした若者にコンピュータ技術を教えるというもの。



赴任前からこの国には選挙を巡って非常事態宣言が出されていて、



生徒たちにITを教えながらも、活動には大きな制約がついて回っていた。

2008年11月

外国人が反イスラム教だという噂が流れ、協力隊員への危険を危惧し、



退避中、庄子さんは他のIT隊員と活動のアイデアを話し合っていた。



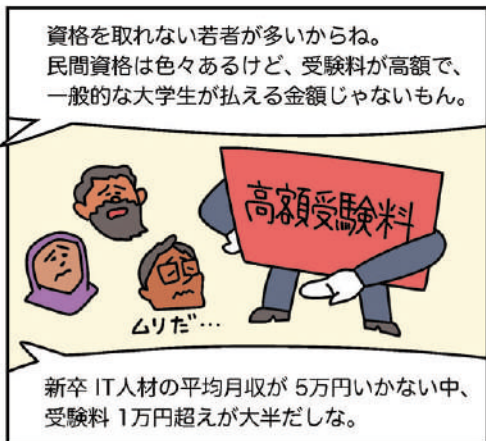
バングラデシュのIT人材の印象ってどう？



各地の隊員全員が口を揃えて言うのは、「英語を話せて、スマートで優秀」かな。

わかる！でもそんな輝いてる若者が、現状IT人材として成功するのは難しいよね。





でも、採用する企業も、大学名とかでしか人材の実力を推し量る方法がない。つまり、一流大学に進学できなかった人は、それ以降、自身の能力を証明する手段がなくなる...



IPA（独立行政法人 情報処理推進機構）ITスキル標準（ITSS）を基にした人材育成標準と日本の国家資格である情報処理技術者試験（ITEE）を
Bangladesh人が実力を証明する「ものさし」として導入できないだろうか？

こうして、できていったのが…
IT 国家資格、情報処理技術者試験（ITEE）導入構想。



この ITEE のプラットフォームを使って、日本の国家資格と相互認証する。

2009年 私たちは、これらの活動を通じ日本とBangladeshをつなげる架け橋になりたいという思いを胸に、



よし!



ITEE を Bangladesh で推進するための活動をスタート。

IT 隊員たちが中心となり、IT 人材育成セミナーを開催。

名門ダッカ大学や BASIS から講師を招き、人材育成の重要性を広く訴えた。



しかし…

物事はそう簡単にはいかないものだ。
協力隊が発案したプロジェクトは
JICA案件として採択されず、一度は皆が意気消沈した。



科学情報通信技術省の事務次官宛に出した ITEE 導入要望書を手に、
現地大手新聞社 (Daily Star/Protom Alo など) に
アポも取らずに売り込むと新聞記事にしてもらえた。

これら草の根活動の中心人物が、キーパーソン2人目、

IT 隊員の中根望さん。



Bangladesh の講師・学生は、
素晴らしいスキルを持っている。
ITEE のレベル2 (日本の基本情報技術者試験レベル)
ならさっさとできる。



Bangladesh からの需要を高めていくのと同時に、
日本企業との連携を進めることも大事だった。



中根さんを中心にまず、株式会社 BJIT、
そして JETRO などにも説明して回った。

次の市場を探していた日本企業の反応は悪くないが、
日本語での業務発注がしやすいベトナムなどへの進出ケースが多く、
資格などで実力を示さないと日本企業からの受注は難しい。



そのためツールとして「ITEE 資格試験」の導入が必要だと中根さんと IT 隊員たちは再認識した。

2009年 6月

JICA バングラデシュ事務所
新所長が着任。

キーパーソンの3人目、

戸田隆夫所長。

君の北極星はどこだ？
この隊員活動を何で
成し遂げたいんだ？

着任早々、JICA 海外協力隊
(旧青年海外協力隊・シニア海外ボランティア)の
一人一人と面談した。



国家資格としての ITEE 資格試験導入を目指すなら、
政府上層部の協力や約束を取り付けることが、

絶対だ！

JICA 事務所の長英一郎次長・
駒走拓三ボランティア調整員を中心に
政府上層部に頼んでもらい、

ITEE の国家資格導入に向け
情報提供の下準備を進めていこう！

10月、JICA 事務所から
IT隊員の庄子さんに一報が入る。

フルフル

もしもし

おお！

科学情報通信技術省のオスマン大臣に
2日後に会えることになったぞ！
今すぐ事務所に来てくれ！作戦会議だ！

事は動き始めた。

オスマン大臣との面会が決まった。



キーパーソン4人目は、
バングラデシュの大臣だ。

通常のプレゼンテーションは
もちろんなんですけど、



何かもっと私たちがいい形で
大臣へ想いを伝える方法は
ないかな？

オスマン大臣の
大学時代の恩師に、
大臣の趣味や
好きなものについて
相談したら、



どうやら大臣のお父さんは詩人として有名で、
子供時代からバングラデシュの詩「コビタ」が
大好きだったらしい。

へ〜！
コビタ、、、か。



でも、コビタって、
古文を使ったり、
韻を踏んだり、

ベンガル語が得意な僕たちでも作ったり、
読んだりするのはかなり難しいよな。

あ！知り合いにコビタに
詳しい人がいる！



よーし、それなら
アドバイスもらって
作れるかも知れない！

読み方だけでなく、抑揚の付け方も
特徴的らしいって聞いたから、



教えてもらったら
練習あるのみね！

とにかく！
一発勝負で大臣の心を
驚掴みにし、

こちらの本気度を
伝えるんだ！



こうして迎えたオスマン大臣との面談。



JICAとしても全身全霊で
対応するので、ぜひ真剣に
ご検討をお願いしたい！



そして、プレゼンの締めくくりとして
サプライズで用意した詩を披露する時間になった。
詩の内容は、...



大臣への思いを、
詩に込めてきました。

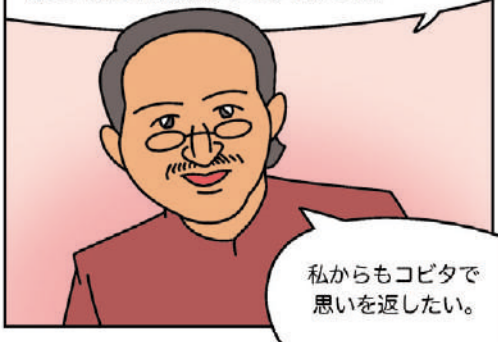
詩の朗読を始めた瞬間、
科学情報通信技術省の
幹部たちの表情が、

一気に変わった。



ちょっと待ってくれ...

君たち日本人から Bangladesh のコピタを
贈られるとは想像もしていなかった。

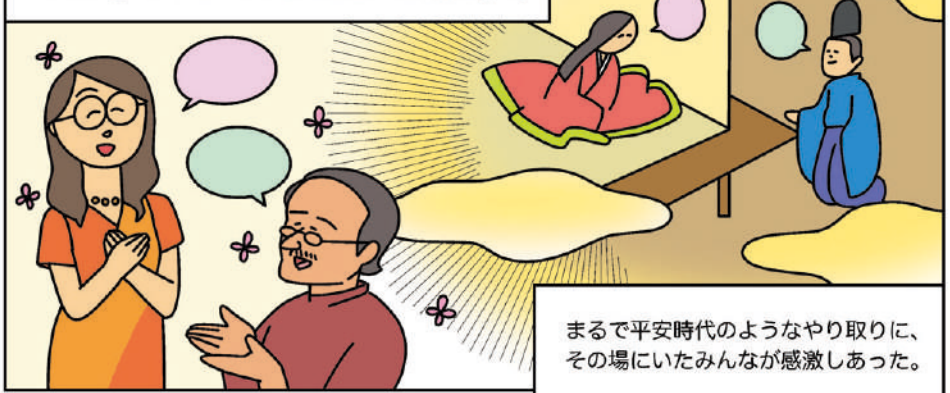


私からもコピタで
思いを返したい。

『架けられた橋を多くの人が
渡り合えるようにしていこう』



こちらが詩をプレゼントすると大臣から返歌を頂く。



まるで平安時代のようなやり取りに、その場にいたみんなが感激しあった。

相手の文化を理解し、現地語で相手の懐に飛び込んでいく。

まさに協力隊員らしい表現で、大臣に ITEE 資格試験の重要性を伝え、

この訪問は大成功となった。

そして、オスマン大臣からすぐに指示がきた。

BCC内にワーキング・グループを作ってください！



Bangladesh 政府としての本格的な検討がスタートすることになったのだ。

その頃バングラデシュでは、、
IT 隊員たちの地道な活動の成果もあり、

日本国大使館、JICA、JETRO、
現地側の BASIS や大学などでも
ITEE に対する理解が進んでいた。

我々は、ITEE の模擬試験を開催し、バングラデシュのポテンシャルを証明して、
日本の経済産業省、IPA、JICA、IT 企業へのアピール材料にしようと考えた。

2010 年 10 月。
JICA 主催で ITEE コンテストという
模擬試験を実施することに。

ITEE コンテスト

日本政府のお墨付きを得ようと
各所に後援依頼を打診。

大使館・経済産業省、多くの企業・団体が
後援・スポンサーとして協力してくれることに。

協力するよ!



バングラデシュの科学情報通信技術大臣、
在バングラデシュ日本大使も駆けつけた!



ダッカ大学などのコンピュータ科学部に
学生を参加させてくれるよう協力を依頼。

そして、歴史あるホテル「パンパシフィック・
シヨナルガオン・ダッカ」のホールに集まった
269人を対象に、コンテストは実施された。



結果、合格率 11.52%

2009 年のアジア各国の
平均合格率 11.10%を上回った。

「あなたたちのポテンシャルは、他の国とは引けを取りません！
自信を持てる数字になった、大成功だ！」



BCC もこれらの結果から、本格的に資格試験の導入を検討。
日本政府への技術協力プロジェクトの要請書を準備し始めた。

「若者たちのポテンシャルはあるのに
証明する方法がない」という IT 隊員たちが
感じていた問題意識。

バングラデシュの政府、大学、民間企業、
日本の省庁、大使館、JICA、民間企業に
対するアプローチ。

これらの成果が一つの形となって、「バングラデシュへの IT 国家資格導入」という
技術協力プロジェクトの要請が日本政府に提出されることになった。

ここまでが、青年海外協力隊が火をつけた
「IT 国家資格導入プロジェクト」の創成期についてのストーリー。

この後、このバトンを受け取る一人になるのが、



2011 年当時に JICA 経済基盤開発部で
IT 人材育成プロジェクトを担当していた僕だ。

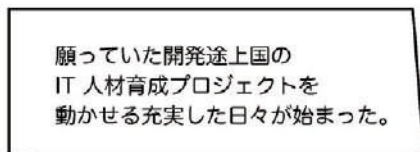
僕は案件の採択・実施に向け
関係省庁やバングラデシュ政府と
交渉してプロジェクトの企画・
立ち上げを進めていくことになる。



(僕をキーパーソン5人目
ということにしておこう(笑))



ある日、Web でアジア諸国のことを色々調べていた僕の目に飛び込んできたのは、
JICA がフィリピンで実施していた「高度 IT 人材育成プロジェクト」だった。衝撃が走った。





古田次長からもらった一本の電話から始まった、このプロジェクトとの出会い。僕は色んな運命に導かれ、その後、バングラデシュに赴任することに。



2012 年初頭。
経済産業省の石田課長補佐が
GO サインを出した。

経済産業省が外務省に
実施の意思を伝え、無事採択。



「Bangladesh の ITEE、
やりましょう！」

ついに JICA の技術協力プロジェクト
「ITEE マネジメント能力向上プロジェクト」が始まった。

プロジェクトの目標は、

「ITEE を Bangladesh の IT 国家試験にし、持続的に運営される体制を整備する。」

その目標を元に達成すべき成果は 3 つ。

成果 1

試験実施機関 (BCC) の
ITEE 運営能力向上。

成果 2

ITEE 実施の環境が整う。
(ICT 関係者による認知・産官学による連携体制)

成果 3

ITEE 試験制度が整備される。

そしてその頃、
情報通信技術省の最上位の役職に、
キーパーソン 6 人目となる
N.I.カーン次官が就任した。

政権との強いパイプを持ち、
型破りでダイナミックな行動力の持ち主。
彼のお蔭で流れは劇的に変わっていく。



「俺のドアはいつでも開いている。
いつでも話しに来い。
その場で結論を出す！」

N.I.カーン次官

N.I.カーン次官の協力もあり、存在感を増して行く ITEE プロジェクトは、
ついに 2013 年 10 月に第 1 回のトライアル試験を迎えることになる。

しかし、いよいよトライアル試験の実施が迫る大事な時に、3日連続で「ホルタル(ゼネラルストライキ)」が宣言された。

主にインドやバングラデシュやスリランカなど南アジアで行われる政治活動の一環。

ITEE プロジェクト関係者で緊急会議が行われた。

バングラデシュの実施能力を証明するための貴重な機会が、このトライアル試験なのだ。

行政機関として政権側(与党側)のコントロール下にある。野党に屈する形で試験中止はしたくないだろうな。



試験を中止することは、アジア共通統一試験の協議会「IT プロフェッショナル試験協議会」の



加盟条件『2回のトライアル成功』という実績づくりを半年後ろ倒しになることを意味している。

でも、公共交通機関が止まっちゃうと、遠方の受験生は来られないし、



出歩くことも危険だし、徒歩圏の受験生も来てくれないかもしれない。

IPA から試験監督・審査の人員が既に日本を飛び立ってしまっている。



長時間に及ぶ協議の結果・・・

たとえ1人でも来てくれる
受験者がいたら開催しよう！

うん！
そうしよう！

安全を最大限確保し、
トライアル試験を実施することになった。

みんなで様々な試練を乗り越え、
準備し、試験当日を迎えた。

いよいよ試験当日を迎えた。

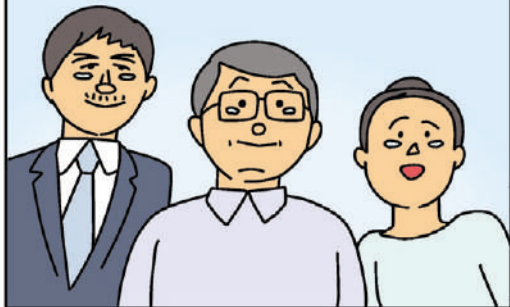
運営メンバーが
不安な気持ちで待っていると…



1人、また1人と
受験生たちがやってきた。

ホルタルの最中にも関わらず、
試験受験の為になんと応募者 332 名のうち 158 名もの人が徒歩などで会場に来てくれた。

正直グッときた。みんなも同じ気持ちだった。



庄子さんが試験終了後、
会場を出ていく全員と強く握手し、
お礼の気持ちを伝えていた姿は忘れられない。

第1回トライアル試験の結果は上々だった。
合格率は15.8%と7カ国中2位。

この結果をもって、 Bangladesh 国内では
国家資格として扱うことを N.I.カーン次官が宣言。



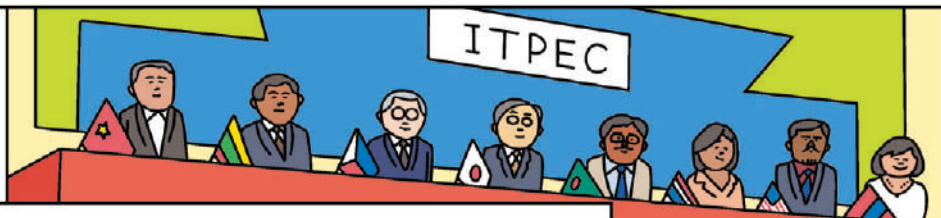
合格証授与式。

合格者には次官の名前でサインされた
合格証書を手渡しした。ニュース番組でも
しっかり報道され、知名度の向上にもつながった。



2014年9月。

様々な実績を経て ITPEC にて協議を重ねた結果、 Bangladesh が7カ国目のメンバーとして
ITPEC に加盟することが決まり、セレモニーも開催された。



ITPEC 加盟国からは実施機関の代表者が Bangladesh を訪問。
Bangladesh 側も郵政通信情報技術省のシディキ大臣・
ボラク ICT 担当大臣がセレモニーに参列。

日本側は、経済産業省から大橋秀行審議官、IPA からは田中久也理事、
大使館からは佐渡島志郎大使、JICA も廿枝幹雄所長が参加。開催に花を添えてくれた。



ついにプロジェクトは大きな目標の一つに到達。全てのスタッフが達成感に包まれた。

Bangladesh で ITEE に合格すれば、
アジア13カ国と相互認証された国家資格が得られることになったのだ。

しかし、目標を達成しても課題はまだあった。
次の課題は、プロジェクト終了後の持続性である。
JICAの技術協力は期間が決まっているのだ。



よろしくねー!



あ、おう

Bangladesh
コンピュータ
評議会

そのため、Bangladesh側の実施機関で運営を続けてもらう必要があり、
人と予算の配置を BCC 側に強く求め続けた。

そして、JICA では、Bangladeshで IT 国家資格を
導入するという目標は達成したものの、

“日本・Bangladesh間の人材・ビジネス連携の活性化”という
ITEE プロジェクトでは成し遂げられなかった新たな課題を抱え、次の一手を模索していた。

その風穴をあけるきっかけとなったのが、
宮崎市の人達との出会いだったのだ。



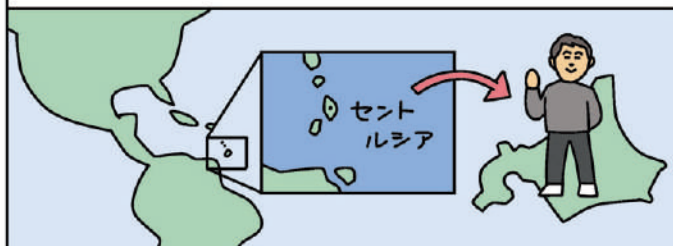
ここから舞台は再び日本、
宮崎県へと移る。

宮崎大学特別教授。

田阪さんと
バングラデシュとの
出会いは2010年。

キーパーソン7人目は、
田阪真之介さん。

新卒で青年海外協力隊に参加。セントルシアに赴任し活動した。
帰国してからは教育関連企業の北海道支社で勤務していた。



田阪さんはやはり、
開発途上国での
教育事業に興味が
あるのですか？



ノーベル平和賞を受賞した
ムハマド・ユヌス博士に影響を受けてさ、

ソーシャルビジネス=バングラデシュ
というイメージを持っていて、
いつかバングラデシュで教育事業を
してみたいと思っているんだ。



バングラデシュで
教育事業？

うん、勤務先の新規事業審査会が
開催されたから、バングラデシュでの
教育事業案を提出したんだ。



BOP ビジネス、
注目されてますよね。

うん、そしたら、
社長賞を受賞できて。



この事業案、
もっと練り上げ、
次のフェーズに進むためには、
ソーシャルビジネスに詳しい人に
話を聞かないといけませんね！



BOP ビジネス = 企業が開発途上地域における低所得者層を対象に展開するビジネス

この分野の第一人者って言われてる北海学園大学の菅原幸幸教授を訪ねたら、
「 Bangladesh で IT 人材育成ムーブメントの火つけ人、

協力隊から
帰国したばかりの
庄子明大さんを
紹介してもらえたんだ。

そこで熱い想いを伝えてみたんですね？
「 Bangladesh の教育改善に
自分も何か貢献したい」…。

そうそう。
そしたら庄子さんも
その重要性を認識してて、
意気投合したよ。

やっしましよう!!

この後2人は、
自費で Bangladesh 調査に
行くことになるのだった。

Bangladesh で IT 資格試験である ITEE に関する支援を JICA が実施している頃…

ITEE の合格率がなかなか上がらないって、
庄子さんが困ってるらしくて…。

田阪さん、
何かアイデア
お持ちですか？

うーん。

「教育情報サービス」の
教育コンテンツを活用すれば、
 Bangladesh での ITEE の試験対策になるし
合格者向上のための e ラーニングとして
貢献できるんじゃないかと思うんですね。

なるほど！…
そういえば、ITEE プロジェクトの専門家として
 Bangladesh 赴任中の庄子さんが
一時帰国するらしいですよ。

お！それはぜひ宮崎に
立ち寄ってもらわないと！

更に…
そこで現れるのが
キーパーソン8人目、

「教育情報サービス (KJS) の
萩野次信社長だ。

運命のタイミングが重なり…

庄子さん、萩野社長、他優秀なスタッフが揃い作戦を立てることになった。

のちに「宮崎-バングラデシュ・モデル」と呼ばれるようになった事業の、元になった話が3つほどある。



まず、その1。

教育情報サービス荻野社長の思いつきによるバングラデシュ人エンジニア2人採用！



JICA で案件化調査が採択され、荻野社長がバングラデシュを初めて訪れた。

荻野社長、バングラデシュは
いかがですか？

とにかくすごい。
計り知れない熱量を
帯びた所だね。
日本人が無くしてしまった
人と人との関係を思い出す。

私はここ好きだなあ。

そう言ってもらえると、
とても嬉しいです。

道でたくさんの若者たちがおしゃべりしているのが目に入ってね。
宮崎では、日本ではと言った方が正しいかな、

繁華街を歩いても
あまり人と接していないな～と
思ったんだよね。

宮崎ではあまりこういう光景は
見かけないんですね～。

そう。だからもし、こういう人たちが宮崎に来てくれたら、
色んな意味で宮崎にも良い刺激になるんじゃないかなあ。

バングラデシュの IT エンジニアたちの性格は、
実は宮崎の風土に合うかも知れない。
とも思ったんだよね。

え？ほんとですか？

「それにね、シンプルに、こういう人達と
一緒に仕事をしたいって思ったよ。」

こんな思いつきをきっかけに有言実行の荻野社長はバングラデシュ人を2人採用し帰国。
このニュースを聞いた宮崎市や宮崎大学は、『これは宮崎の事業の一つになるのでは？』と考え、
その後、生まれる「宮崎-バングラデシュ・モデル」の元の一つとなっていくた。

ちなみに…

この時採用されたエンジニア2人はというと、1人は配偶者も呼び寄せ宮崎でKJSに勤務を続け、
もう1人は東京の会社に転職。いまでも日本でITエンジニアとして活躍している。

「宮崎 - バングラデシュ・モデル」事業の元になった話、その2。
宮崎市のIT人材にまつわる悩み事。



- ・ IT 企業の人材不足
- ・ IT 業界の認知度が低い
- ・ ハイレベルな人材を宮崎に留めておくことが難しい

バングラデシュ人を IT 人材不足の切り札として認識し始める事に。

「宮崎 - バングラデシュ・モデル」事業の元になった話、その3。
バングラデシュ社員の日本語教育について。



ダッカにいるバングラデシュ人社員の日本語教育の質を上げ、
日本語教育改善をしたいという企業の問題意識

民間 IT 企業と宮崎大学の連携案。

バングラデシュ IT 人材育成意見交換の場で、
この「3つの事」と「IT 人材育成・地方自治体をつなげる地方創生のアイデア」が繋がり、
JICA へとこの想いが共有されていくことになる。

2016年12月25日。
宮崎大学国際連携センター、会議室。

宮崎側の関係者、JICA 本部からの出張者、「産官学」の関係者が顔を揃える中、
バングラデシュ IT 人材への日本語教育・雇用に関するモデルが生まれた日となった。

宮崎-バングラデシュ・モデルの
原案が作り上げられたのだ。

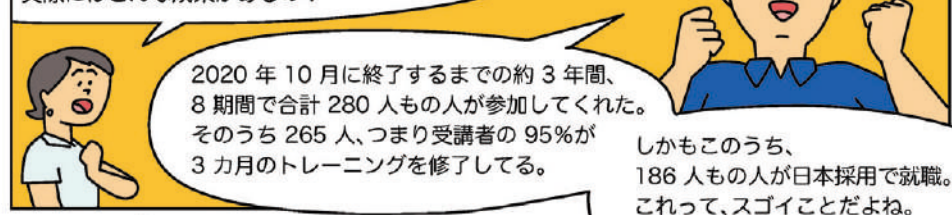
このモデルの大きな特徴は、来日にかかる手続きに関しては全てを民間企業・自治体側に委ね、
採用や雇用にかかる費用、渡航や研修費用に対しても JICA の支援は一切入っていない。
これがとても重要なことだった。

日本市場向け人材育成の一部である「B-JET」について紹介しよう。

B-JET とは・・・日本市場向けバングラデシュ IT エンジニア育成プログラム。

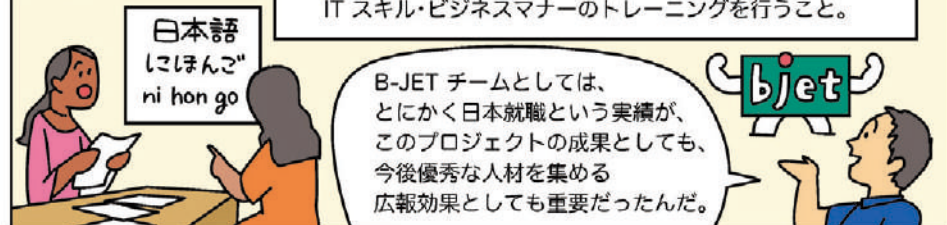


JICA の技術協力プロジェクトがスタートしてから、実際にはどんな成果があるの？



B-JET の主な活動は？

日本のIT企業や日本企業と関連のある現地IT企業で働くITエンジニア育成のために日本語教育やITスキル・ビジネスマナーのトレーニングを行うこと。



第1期生の参加者の応募数はどれくらいだったの？

SNS や求人媒体で公募したら、応募総数は20人枠に対してなんと1,825名。あまりの反響にみんな驚きを隠せなかったみたい。(笑)



B-JET が初めて日本からの採用ミッションを受け入れたのは、
第 1 期の研修が実施中だった 2017 年 12 月のことだった。

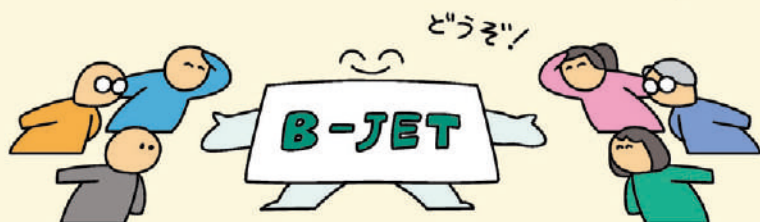


そして、これを皮切りに、他の都市の企業でも就職が決まりはじめた。

地道に増える実績のお蔭で「B-JET 生は優秀なのでぜひ雇って欲しい」と、声を大にして言えるようになっていた。



宮崎だけでなく、バングラデシュに拠点を持つ日系 IT 企業からの視察がきたり、日本の IT 企業から直接 B-JET の専門家チームにコンタクトが来たりと、

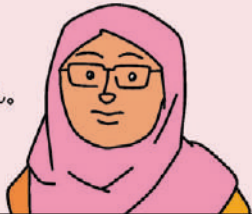


採用のバリエーションも増え、
中小の IT 企業からも採用ミッションに参加者が出るように。

2021 年 3 月時点。B-JET の研修終了後に就職する人達は、
東京、宮崎、北海道、福岡をはじめ 11 の都道府県に広く活躍の場を広げている。

Bangladesh と日本の "情熱ある人々" がなしえた事が、
どんな風に、ある1人の人生を変えたのか、ここでご紹介したい。

ハジェラ・
マルジアさん。



2018年、B-JET 第一期生として来日。
宮崎市に滞在、市内の IT 企業にて勤務。

大学時代に、偶然 B-JET の公募を見つけ
「まさか自分が日本で働けるなんて。」と、
思いつつも申し込んでくれたそう。

日本に来て、
どうでしたか？



たくさんの学びがあって、
嬉しい驚きもたくさんありました。
チームワークを大事にすることや、
組織化しながら働くことの
大切さも知りました。

日々の生活で得たものは？



いたるところに
イノベーションが
転がっていました！

あらゆる製品のインターフェースが、
とてもユーザーフレンドリーに
設計されていることにも驚きました。

へ〜、日本で生まれ育つとそこに
ありがたみは感じてないかもしれないです…。



宗教的なことで困る
ことはありましたか？

私はイスラム教徒
なのですが、生活の1つ
「お祈り」に対しても会社の人
達は理解してくれて、困ると
感じることはなかったんです。



Bangladesh にいるお友達に日本はどんな国が聞かれたら、何て答えますか？

女性の友達には、「安心して生活できる場所」と言うし、
男性の友達には、「技術的にとても進んだ国だよ」と伝えますね。



そんな風に
言ってくれるのは、
こちらも嬉しいです。



マルジアの将来の目標は？



私の将来の夢は、、、IT で起業して社会に貢献することです。
この経験を生かして国境を超えたビジネスを
展開したいと思っています。

バングラデシュと日本の本当に
たくさんの情熱ある人が活躍した
プロジェクトだったんですね。

そうなんです。B-JET における
バングラデシュ IT人材の日本就職
という動きは、日本が人材育成・
国家資格導入の協力をしたという
一方向の支援じゃなかったんです。

『日本の社会問題である
少子高齢化に伴う IT 人材不足』と、

『バングラデシュでの魅力ある
就業機会の創出と IT 産業の育成』

という、2つの国の社会課題を同時に解決できるものだったという点が特徴的だったんです。

日本の IT人材不足は
深刻でもんね。

はい。日本では 2030 年に最大で 79 万人の
IT 人材が足りなくなるといわれているんです。

東京だけでなく、地方でも？

地方部はその傾向が顕著なんです。
宮崎市などでは優秀な人材が、東京や
福岡に出てしまうことも多かったです。

バングラデシュでは？



まず人口ピラミッドが日本とは全く違って若年層中心。
でも、若い人たちにとって国内での
魅力的な仕事がまだ多くないという状況なようです。

そこで生まれたのが
B-JET であり、
宮崎-バングラデシュ・モデル
ということですね？

この構図は、日本がエンジニアを育成・
受け入れてあげるという形ではなく、

バングラデシュ人
エンジニアたちが
日本の IT 人材難解消に
向けて貢献してくれて
いるという構図でもあります。

言い換えれば、日本がバングラデシュを
支援しているのと同時に、

実はバングラデシュからも
日本を支援してもら
うという関係になっている。

それって、とても素敵な関係ですね！

“支援する側、される側。といった一方向ではない” 国際連携の形って、
新興国の活力が日本の開発課題に貢献することにもつながるので、

『新しい形の国際協力』として、各国に拠点を持つ
JICA だからこそ出来る新たな役割になるかもしれないですね。

IT人材育成って、狩野さんにとって何ですか？

ライフワークかな～。

大学に入った頃は
将来の目標とか特になくて…。

狩野さんが？(笑)

うん(笑)。IT企業でバイトする機会があって。
時給もらっているのに色々できなくて…。
その時、はじめて本気で勉強してさ。

これじゃ
ダメだ!!

そしたら、俺、そこでちゃんと伸びたんだよね。
で、そこで気づいたんだよ。

何に??

ITは使い方によっては誰にでもチャンスと
与えられるものなんじゃないかなってこと。
ITはいろんなものを変えられるかもってね。

なら、それを開発途上国の
成長に繋げられるように
したいって思ってたさ。

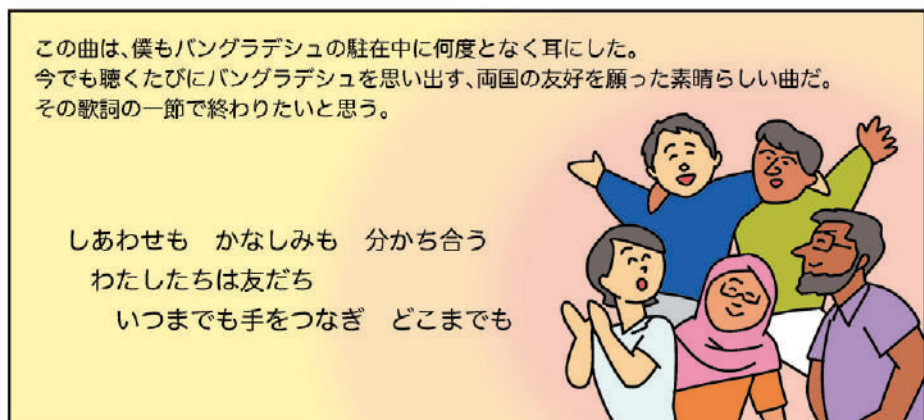
そして、外国の成長を取り込んで
日本の成長にもつなげられたら最高じゃんってね。

なるほど、その1つがバングラデシュと日本の
ビジネスの関係なのですね！



日本バングラデシュ国交 40 周年記念友好ソング。

2012年に JICA 海外協力隊が中心となり、現地のアーティストたちと協力して作った曲がある。
タイトルは、「君は緑にお日さまの国 私はお日さまののぼる国。」





独立行政法人国際協力機構（JICA）は
日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として
開発途上国への国際協力を行っています
JICAは、「信頼で世界をつなぐ」をビジョンとして
人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる
自由で平和かつ豊かな世界を希求し
パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぎます



IT国家資格 (ITEE) 導入プロジェクト紹介

2008年、バングラデシュに赴任したIT関連の青年海外協力隊員たちは、現地の若者たちが即戦力のIT人材として成功できるよう、自身のIT能力を証明できるIT国家資格を同国に導入できないかと動き出します。この草の根の普及活動から始まったIT人材育成のムーブメントは、2012年には技術協力プロジェクトへと発展。バングラデシュ政府関係者と共に、国家資格である情報処理技術者試験（IT Engineers Examination: ITEE）の導入に向けて突き進みます。難関が次々と立ちはだかる中、ついに2014年、バングラデシュはITプロフェッショナル試験機構に正式加盟。これにより、同国でITEEに合格すれば、フィリピンやベトナムといったアジア13カ国と相互認証される国家資格を手にするようになりました。

明確な目標に向かって努力できたら、
彼らの才能を生かせるかも！

チャンスさえあれば、彼らも世界の
グローバルマーケットの中で活躍
できるんじゃないか？！

詳しくはこちらを
ご覧ください



バングラデシュ IT人材育成がもたらした影響

ICTによって
公平・公正な恩恵や
新たな雇用

ICT技術の活用による
貧困削減と経済成長

人材育成を含めた
包括的な社会・経済発展

バングラデシュのIT人材育成とは

2008年、バングラデシュに赴任した青年海外協力隊員たちから始まったIT人材育成のムーブメントは、技術協力プロジェクトへと発展し、2014年には国家資格である情報処理技術者試験の導入にこぎつけました。さらに、バングラデシュのIT人材と日本をつなぐために両国のさまざまな関係者が動き出した結果、技術協力プロジェクトで支援したIT人材育成プログラム（B-JET）修了生のうち、7割を超える200人近くが日本全国で活躍しています。これらの動きは、開発途上国の抱える課題と日本の地方創生に同時にアプローチするという新しい国際協力のモデルとして注目されています。





企画制作・発行 : 独立行政法人 国際協力機構(JICA)

監 修 : 狩野剛 / 庄子明大 / 田阪真之介

漫 画 : uwabami

脚本・デザイン : ROOM810

発行年月日 : 2022年12月

プロジェクトヒストリー
当冊子はこちら



この作品は事実に基づいて執筆された書籍「 Bangladesh IT人材がもたらす日本の地方創生 協力隊から産官学連携へとつながった新しい国際協力の形」を元に、再編集し制作された漫画です。